

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

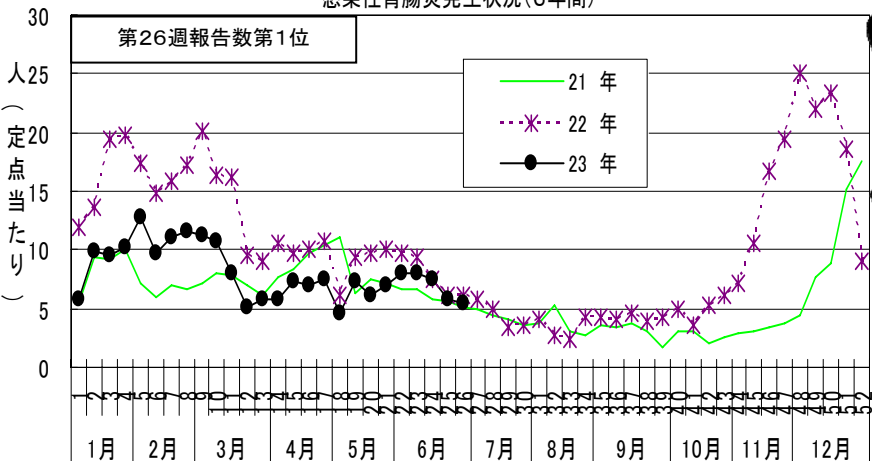


KAWASAKI CITY

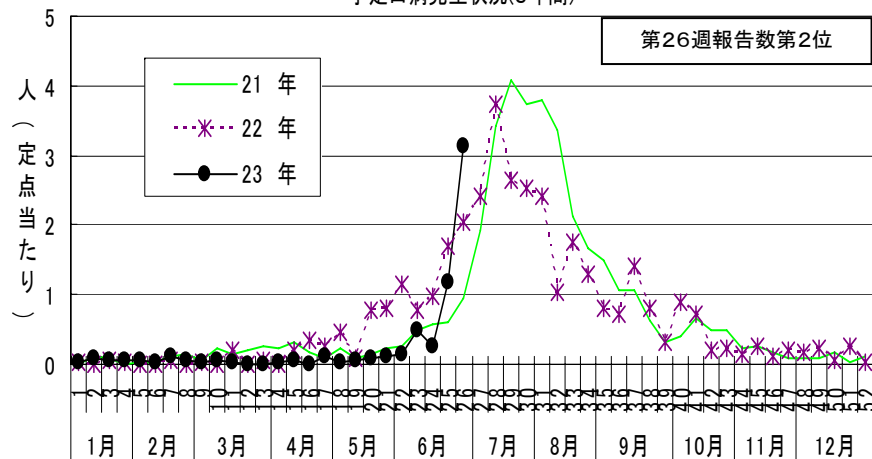
平成23年6月27日(月)～7月3日(日)〔平成23年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.41人と前週(5.78)より患者報告数はやや減少し、例年を下回るレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり3.13人と前週(1.19)より患者報告数は大幅に増加し、過去10年間の同時期と比較すると、今年は平成17年に次いで2番目に多い報告数となっています。また、全国的にも、過去10年間と比較して最も高いレベルでの推移が続いています。
 ヘルパンギーナは定点当たり0.97人と、例年を下回る推移ではありますが、患者報告数が徐々に増加しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



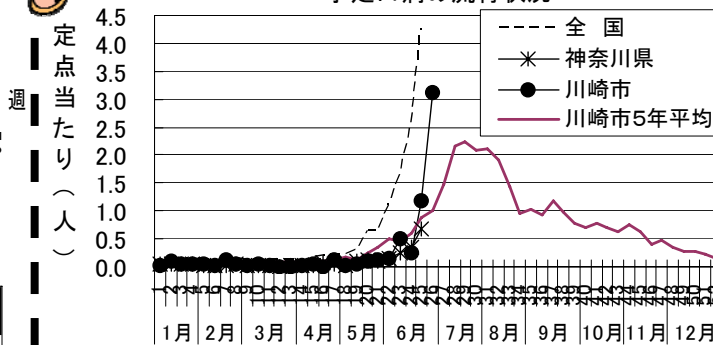
手足口病発生状況(3年間)



例年を大きく上回るペースで急増中～手足口病～

乳幼児を中心に例年夏期に流行をしめすウイルス性疾患の「手足口病」の患者数が、川崎市内及び全国において例年を上回るペースで増加していますので、今後の動向の把握及び予防対策の徹底などが必要です。

手足口病の流行状況



手足口病ってどんな病気！？

手足口病は、ウイルス感染によって水疱性の発疹等の症状が出る感染症です。例年、報告数の90%前後を5歳以下の乳幼児が占めています。

手足口病は、感染してから約3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～5mm程度の水疱性発疹が出ます。約3分の1程度の患者に軽い発熱がみられますが、あまり高くないことが多く、通常は高熱が続くことはありません。

ほとんどの場合、数日間のうちに治る感染症です。しかし、まれですが、髄膜炎などの中枢神経系の合併症が出る場合がありますので、患者の経過を注意深く観察し、高熱・頭痛・嘔吐などの症状を伴っている場合には注意が必要です。

気をつけたいこと！！

手足口病は口からの飛沫、便及び水疱内容物などから感染します。一般的な感染対策は、手洗いをしっかりとすることと、排泄物を適切に処理することです。特に、保育施設などの乳幼児の集団生活では、職員と子どもが、よく手洗いをすることが大切です。特におむつ交換の後には、流水と石けんで十分に手洗いをしてください。

また、症状が治った後も1ヶ月程度便の中にウイルスが含まれていることがあります。したがって、症状がないままウイルスを排泄している場合もあるので、日頃からのしっかりと手洗いが重要です。